

■ 概況

当週（9月4日～9月10日）の国際石油市場は、米国の対露経済制裁強化の動き、9日にイスラエルによるカタールのハマス拠点のピンポイント攻撃、あるいは、7日のOPECプラス有志会合の新たな増産（10月実施分13.7万BD）合意、米国の弱めの経済指標等、硬軟織り交ぜた要素で、前半弱含み、後半強含みに展開した。

NYのWTI原油先物市場は、9月4日63.48ドルで始まり、週末5日は3か月ぶりの安値61.87ドルまで3日続落したが、週明け8日には反発、10日は三営業日続伸で63.67ドルと、60ドルはじめの水準で推移した。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）も、前週（8月28日～9月3日）は70.10～71.40ドルの範囲で推移したが、当週は、9月4日69.10ドル、5日69.20ドル、8日69.40ドル、9日69.20ドル、10日70.10ドルだった。

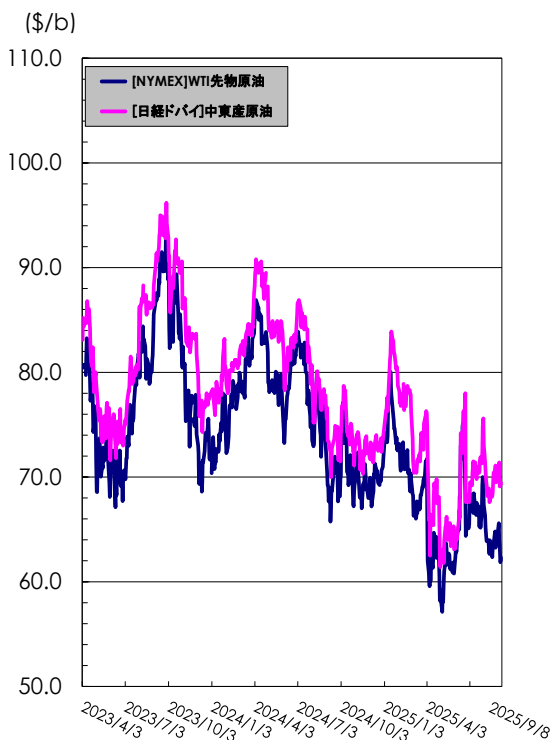
対ドル為替レート（TTM）は前週（8月28日～9月3日）146.92～148.79円の範囲で推移したが、当週は、9月4日148.02円、5日148.25円、6日148.47円、9日147.37円、10

日147.52円だった。

財務省が9月5日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は67,162円/KLで前旬比298円/KL高、ドル建てでは71.99ドル/Bで前旬比0.15ドル/B安、為替レートは1ドル/148.32円。

そのような中で、9月8日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.7円高、軽油も同0.7円高、灯油は同10円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は174.8円だった。9月11日～17日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されたため、定額分のみ、ガソリン・軽油の場合10.0円、灯油・重油の場合も5.0円となった。

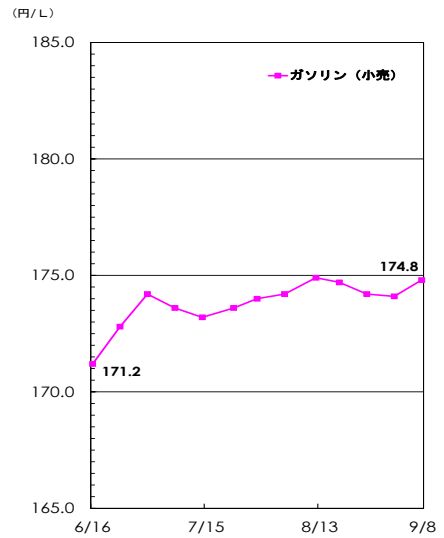
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量（千kl）	8/31～9/6	2,687 ▼ -7	▲ -
	トッパー稼働率（%）	"	77.6 ▼ -0.2	▲ -
	原油在庫量（千kl）	9/6	10,502 ▼ -210	▼ -
価格	中東産原油（日経ドバイ）（\$/bbl）	9/8	69.40 ▼ -0.70	▼ -3.2
	WTI先物原油（NYMEX）（\$/bbl）	9/8	62.26 ▼ -3.33	▼ -6.5
	原油CIF単価（\$/bbl）	8月上旬	71.99 ▼ -0.15	▼ -15.09
	①原油CIF単価（¥/kl）	"	67,162 ▲ 298	▼ -15,547
	②ドル換算レート（¥/\$）	"	148.32 ▼ -0.97	▲ 2.68
	外国為替TTSレート（¥/\$）	9/8	149.47 ▼ -1.19	▼ -5.69



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	9/6	1,645	▼ -36	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/2 ~ 9/8	81.0	➡ 0.0	➡ 0.0
		(TOCOM/中部)	9/8	81.0	➡ 0.0 ▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	9/8	▲ 0.7	▲ 0.3

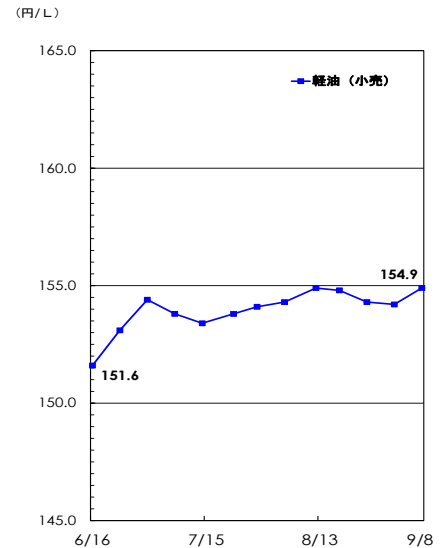
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

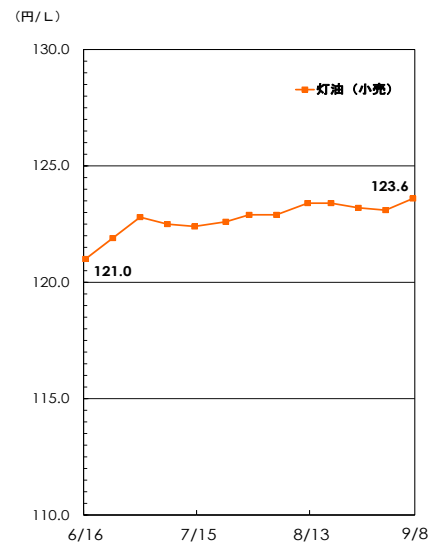
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	9/6	1,617	▼ -30	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/2 ~ 9/8	83.3	▲ 1.2	▲ 2.2
		(TOCOM/中部)	9/8	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	9/8	▲ 0.7	▲ 0.7

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	9/6	2,699	▲ 88	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/2 ~ 9/8	83.0	▲ 1.6	▲ 3.0
		(TOCOM/中部)	9/8	➡ 0.0	▲ 2.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	9/8	▲ 0.5	▲ 6.7



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(8月28日～9月3日)のNYMEX・WTI先物市場は、63.97～65.59ドルの範囲で推移した。

当週9月4日は、米国週間石油在庫が、原油、軽油、ジェット燃料等で積み増しの報告があり、さらに、米国の雇用関係統計が弱含みの数字を示しことで、続落した。7日開催予定のOPECプラス8カ国会合は、増産拡大観測が出る一方、ロシア当局者は議題に上がっていないと発言するなど不透明な状況だった。10月物終値は前日比0.49ドル安の63.48ドル。

週末5日は、OPECプラス会合で追加増産が決議されるとの観測が高まり、この日発表の米国労働省の8月雇用統計も、労働市場の後退を示したことで、需給緩和懸念が拡大し、3日続落、6月上旬以来の安値を付けた。ただ、この日、トランプ米大統領はマクロン仏大統領ら欧州首脳と電話会談、石油輸入を含む対ロシア経済制裁強化や対中関係の厳格化を要請した。10月物終値は前日比1.61ドル安の61.87ドル。

週明け8日は、OPECプラス有志8カ国が7日のWEB会合で、10月の生産量につき、第2段階の自主減産(165万BD)の減産緩和を1年前倒しで開始し、13.7万BD増産すると合意があり、朝方売られたものの、増産幅は9月の54.7万BDよ

り縮小され、増産継続は織り込み済みとして、わずかながら4営業日ぶりに反発した。また、米国政府の対露制裁強化姿勢も、ロシア産原油の供給懸念から、値上がり要因となった。10月物終値は前週末比0.39ドル高の62.26ドル。

9日は、イスラエルがカタール首都ドーハで、ガザ地区を実効支配するハマス幹部をピンポイント攻撃、緊張が高まり、続伸した。また、欧州連合(EU)幹部が来週ワシントンを訪問、対ロ経済制裁強化を協議するとの報道もあり、ロシア産原油供給懸念も高まった。10月物終値は0.37ドル高の62.63ドル。

10日は、9日のイスラエルのカタール攻撃の緊張の影響が続く中、この日、ポーランドは、ウクライナ向けロシアのドローンが領空侵犯したとして、一部撃墜を発表、さらに、トランプ大統領は、ロシアに圧力をかけるため、EUにロシア産原油を輸入する中国・インドに対して二次関税100%をかけるよう要請し、ロシア産原油供給への懸念が拡大した。ただ、この日発表の米国原油在庫が予想外の積み増しを示したことが、米国内の石油需給緩和懸念を生じ、上値を抑えた。10月物終値は1.04ドル高の63.67ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)、9月4日発表の8月29日現在の米国在庫週報は、原油在庫が前週比240万バレル増と、市場予想(200万バレル減)に反して積み増しとなったが、ガソリン在庫は380万バレル減と、予想(110万バレル減)を上回る取り崩しで、まちまちの内容となったが、原油在庫が増加したことは、需給の緩みを感じさせた。また、10日発表の9月5日現在の米国在庫週報は、原油在庫が前週比390万バレル増、ガソリン在庫が150万バレル増、中間留分在庫も470万バレル増と、いずれも市場予想を上回る積み増しとなり、需給の緩みを意識させた。

EIAによると、9月8日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.5セント高の1ガロン3.192ドル(125.9円/ℓ)と4週連

続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.2セント値上りの1ガロン3.766ドル(148.5円/ℓ)と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、9月5日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基増の414基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年08月31日～09月06日に休止したトッパー能力は35.4万バレル/日で、前週に対して9.3万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は268.7万klと、前週に比べ0.7万kl減少。前年に対しては5.8万klの増加。トッパー稼働率は77.6%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては1.7ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

9月6日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、軽油、A重油取り崩し、灯油、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは164.5万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては15.3万kl多い。

灯油は269.9万kl、前週差8.8万kl増。前年に対しては58.7万kl多い。

軽油は161.7万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては13.5万kl多い。

A重油は76.6万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては10.0万kl多い。

C重油は176.9万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては13.0万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (9/6)	前週 (8/30)	前週比	
ガソリン	1,645	1,681	▼ -36	(-2%)
ジェット燃料	911	927	▼ -16	(-2%)
灯油	2,699	2,611	▲ 88	(3%)
軽油	1,617	1,647	▼ -30	(-2%)
A重油	766	774	▼ -8	(-1%)
C重油	1,769	1,703	▲ 66	(4%)
合 計	9,407	9,343	▲ 64	(0.7%)

5 国内/元売会社製品卸価格

9月2日～8日のドル建て中東原油価格は前週比わずかに値下がりしたが、為替の円安で円建て輸入ベースではわずかに値上がりし、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。また、9月11日からの補助金は、前週に続き、定額10円(揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5円)と据え置かれたこともあり、補助金込みの実質卸価格は、わずかに値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

9月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円高の174.8円、軽油も同0.7円高の154.9円、灯油は18%ベースで同10円高の2,225円(1%ベースでは同0.5円高の123.6円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油も4週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが44道府県、横ばいはなし、値下がりは3都県だった。全国最安値は愛知県の169.4円、その次は埼玉県の169.7円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.8円。最も値上がりしたのは香川県(前週比3.2円高)、最も値下がりは福島県(同1.4円安)だった。

次回調査時(9/16)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/8)	前週 (9/1)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	174.1	▲ 0.7	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	123.6	123.1	▲ 0.5	08/8/11 132.1
軽油	154.9	154.2	▲ 0.7	08/8/4 167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第24号)の公表は、9/19(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。